

## 令和3年度事業報告

### 1 社会福祉法人杉の子

#### <経営理念>

社会福祉事業を通じて地域社会・住民、高齢者、利用者様ご家族において、「思いやりや親切な心を持ち続け」て、信頼関係を築く。

#### <経営方針>

- 一、サービス提供の質の向上に努めます
- 一、決められた責任と権限の明確化を図ります
- 一、働きがいのある職場環境を目指します
- 一、健全な財務規律の確立、適正な収益確保を目指します
- 一、地域社会との連携に努めます

#### <施設運営理念（方針）>

- 一、利用者様ひとりひとりを大切にします
- 一、生活の場を提供し、家庭的な雰囲気の中でサービスの利用をして頂けるよう努力します
- 一、地域に開かれ、だれでも気軽にお越し頂けるようにします
- 一、利用者様の尊厳を重視します
- 一、どのようなサービスを利用したいか、利用者様の身になって考えサービス提供を行います

#### <理事会・評議員会・監事監査の実施>

##### 1) 監事監査

決算監査（令和2年度の業務監査・会計監査）令和3年5月13日

定期監査（令和3年度上半期の業務監査・会計監査）令和3年11月11日

##### 2) 理事会

第1回 令和3年5月23日

「議決承認事項」

第1号議案 令和2年度資金収支第4次補正予算（案）

第2号議案 令和2年度事業報告及び決算報告、並びに監事監査報告

第3号議案 理事及び監事任期満了に伴う次期候補者推薦について

第4号議案 定款変更について

第5号議案 運営規程の変更（案）

第6号議案 令和3年度定時評議員会の召集について

第2回 令和3年6月13日（決議の省略）

「議決承認事項」

第1号議案 理事長1名選定の件

第3回 令和3年11月21日

「議決承認事項」

第1号議案 令和3年度資金収支第1次補正予算（案）

第2号議案 育児・介護休暇等に関する規則変更（案）

並びに本案に伴う就業規則変更（案）

第3号議案 高齢者在宅サービスセンター中央本町運営規程の変更（案）

第4回 令和4年3月20日

「議決承認事項」

第1号議案 令和3年度資金収支第2次補正予算（案）

第2号議案 令和4年度事業計画及び当初予算（案）

第3号議案 育児・介護休暇等に関する規則変更（案）

第4号議案 経理規程変更案（案）

第5号議案 非常勤給与に係る給与規程変更（案）並びに非常勤就業規則変更（案）

第6号議案 片岡杉の子園・住吉杉の子園 運営規程変更（案）

第7号議案 中央本町杉の子園 訪問介護事業廃止について

3) 定時評議員会 令和3年6月13日

「議決承認事項」

第1号議案、令和2年度決算の承認について

第2号議案、任期満了に伴う理事及び監事の選任について

第3号議案、定款変更について 4) 補助金及び助成金等事業実績

<法人・本部の事業報告>

・「運営」から「経営」への意識改革の取り組み

オンラインを活用して3施設をつないだ会議や研修を実施し、職員同士が交流できる機会をつくりました。法人内の連携を体感したことで、職員の意識が変わる一歩になったのではないかと感じます。これからも合同の会議や研修を実施して、法人の取り組みや指針を職員に伝え、職員の声を聴けるような機会をつくりたいと思います。

・経営改革への取り組み

令和3年度から3施設合同の実績報告会を開始しました。月1回、各施設のサービス毎に相談員が実績報告を行い、業務で創意工夫していること等の発表をしています。この会議を通して、課題を見つけ、改善に取り組むPDCAを行っています。そして、お互いの頑張りを称え合い、自信を持って仕事に取り組める成長のきっかけにしてほしいと考えています。自分の業務実績が施設経営に、そして法人全体の経営につながっていることを実感して、目標達成への意欲を高めてくれることを期待しています。この会議は施設長が交代で進行を務め、理事長と本部職員がオブザーバーで参加

しています。

#### ・職員採用

新卒採用・中途採用共に厳しい状態が続いています。職員確保の対策として、外国人技能実習生の受け入れを決定し、令和4年度に各施設に2名ずつ、計6名が配属される予定です。

また、ホームページをリニューアルして、採用ページが見やすく変わりました。職員紹介や対談を掲載し、募集要項やブログは各施設で随時更新しています。ブログでは、施設の特徴や雰囲気が伝わるレクリエーションやイベントの写真を掲載しています。今後も職員紹介のコンテンツを増やして、就職先として魅力を感じていただけるような情報発信をしていきます。

#### ・職員教育

介護職員としての経験が無い方でも安心して知識と技術が身につけられるように、新人教育用のチェックリストを作成しました。教える項目と時期を明確にしているのも、目標設定や評価にも活用でき、指導職員が進捗管理しやすいツールとなりました。

本ツールは、3施設の介護課・通所課の職員がオンラインの合同研修を受けて作成しています。

## 2 片岡杉の子園

### <施設全体>

- ・ 今年度も地域交流や外部研修、ボランティアの受け入れ等を、コロナ禍で実施することができませんでしたが、感染症への備えや職員への情報提供を優先し感染症予防を努めました。
- ・ コロナ感染症に職員数名が感染しましたが、感染拡大にならずサービスを中止することなく済みました。
- ・ 各サービスの稼働率向上のためチラシを作成し、営業活動に力をいれました。その成果が年度後半から現れて稼働率が向上しました。
- ・ ICTの導入を準備しました。計画より遅れてしまいましたが現在、全職員が研修中で6月より開始します。
- ・ 感染症予防のため外部研修のほとんどはオンライン研修で実施、内部研修は全ての部署が毎月実施することは困難でしたが、できる範囲で動画研修を実施しました。

### <ボランティアの状況>

下記の団体・個人の方にご協力いただきました。 (順不同)

あじさいの会様 ・ 久保田智恵子様

### <寄付者一覧>

下記の個人団体の方からご寄付いただきました。

島田法人会青年部会様 ・ 小林紀子様 ・ 山田清枝様

### 1) 介護老人福祉施設

- ・ 年間で予定されていたイベントがコロナ禍で縮小されましたが、忘年会・敬老会・絵のクラブ・運動会等を施設内で利用者様が安全に楽しめるように開催することができました。夏祭りは体調不良者がいらしたため、おやつイベントのみを実施しました。
- ・ 感染症予防については消毒・検温・体調管理を徹底し、他の職員への報告や対応の連携など強化し徹底できました。
- ・ 感染拡大状況により、その都度、感染症予防マニュアルの見直しを実施し職員に周知しました。
- ・ 利用者様の体調に対し他部署との連携で迅速な対応が可能になり、水分補給や栄養補給を工夫し、脱水予防と低栄養の改善に取り組みました。
- ・ 居宅介護支援事業所に他のサービスの営業に行った際に、入所申し込みの営業もおこなう事ができ待機者が増えました。

### 2) 短期入所介護

- ・ 利用者様やご家族の要望を聞きながら、安心した居場所を提供することができま

した。

- ・ 利用者様の体調の変化はご家族に連絡を取り、速やかな対応ができました。
- ・ 居宅介護支援事業所を回り営業を地道に続けた成果が、年度後半から利用率向上に繋がりました。

### 3) 通所介護

- ・ 認知症に特化したデイサービスである内容のチラシを作成して、居宅介護事業所及び地域に配布しました。その結果、年度後半より稼働率が向上し登録者が20人増加することができました。
- ・ ご家族とのコミュニケーションを積極的に図り、家族への満足度調査では回収率100%でほとんどのご家族が満足していると回答をいただきました。
- ・ 福祉体験やボランティア・慰問等の地域の方との交流は引き続き、コロナ禍での感染症予防対策により受け入れができませんでした。
- ・ 内部研修を毎月実施し様々な分野の知識向上ができました。

### 4) 地域密着認知症対応型通所介護

- ・ 感染症予防に努め、利用者及び職員のコロナ感染症の感染はなく、安心して利用していただける環境づくりができました。
- ・ 居宅会議事業所への営業は継続していましたが、新規の利用者様がいない状態が続いています。「ひまわりの家」の特徴を強調したチラシ作りに取り組んで配布していきます。

### 5) 居宅介護支援事業所

- ・ 利用者様の意向を尊重し、生活環境を確認しながら地域参加が継続できるよう、多職種・専門機関との連携を行いました。
- ・ 新規依頼は積極的に迅速に対応しました。
- ・ 居宅支援事業所の感染症マニュアルは作成中です。
- ・ オンライン研修を積極的に受講し、業務に生かせるよう努めました。

### 6) 地域における公的な取り組み

#### ① ふれあいの場「野いちご」

- ・ 毎月第1、第2金曜日 10時から12時 片岡会館
- ・ 地域の仲間づくり、認知症予防、介護相談を目的に開催。
- ・ コロナ禍で支援学校との交流ができませんでした。また、活動が計画通りにできませんでした。
- ・ ボランティアと参加者が一緒になって、活動内容などを考え運営しました。

#### ② 訪問型サービスD（移動支援）

- ・ 毎週火曜日 木曜日 かがやき（デイサービスB）の利用者様の送迎業務を実施。

- 安全に送迎業務に取り組みました。
- 利用者様の人数が増加してきて、2台の車両を使用しています。

### 3 中央本町杉の子園

#### 施設全体

令和3年度は、感染防止対策の徹底を図ってまいりましたが、昨年につき新型コロナウイルス感染症（クラスター）が発生してしまい、特養の新規利用者の受入中止やショートステイ及びデイサービスの営業を一時休止せざるを得ない状況となってしまいました。結果、利用率の低下により大幅な減収となってしまいました。また、利用者様をはじめご家族、地域住民の皆様、関係機関等、多くの方々にご心配とご迷惑をおかけしてしまいました。コロナ禍において、職員も日々不安と闘いながら仕事をしてきています。今後も更なる感染防止対策の徹底を図り、利用者様に安全で安心して日々を過ごしていただくことができるよう努めてまいります。

今年度目標に掲げておりました人材育成のための研修については、eラーニングを活用したことで、多くの職員に対し研修の機会を広げることができ、一定の成果をあげることができました。

#### ボランティアの状況

令和3年度は、下記名の個人・団体の方にご協力いただきました。

田原 次子様、藤塚 千代子様、

(順不同)

#### 寄付者一覧表

令和3年度は、下記の個人・団体の方からご寄付をいただきました。

藤塚 千代子様、河村 邦昭様、谷 幸子様、本間 健様

(順不同)

#### 1) 介護老人福祉施設

- ・ヒヤリハットの提出が浸透し、リスク委員会を中心に事故予防策を定期的に検討することで重大事故防止に繋げる事が出来ました。
- ・新型コロナウイルス感染予防の為、季節行事の中止や外出の機会も持てなかったため、小グループでのレクリエーションの場を提供し少しでも楽しい時間を過ごしていただけるよう努めました。
- ・新型コロナウイルスクラスター発生に伴い、利用者様・ご家族に多大なご迷惑をお掛けしましたが、職員一同全力を挙げさらなる拡大防止を防ぐことが出来ました。
- ・コロナ禍の面会中止が続き「リモート面会」や日々のご様子を相談員からご家族に伝える事で不安解消の一助と致しました。
- ・利用者様の摂取、栄養状態に基づき、個別栄養マネジメントを実施し、出来るだけご本人の意向・嗜好に合わせた食事を提供しました。
- ・オンライン研修を毎月実施することで、職員の知識向上に努めました。

- ・実習生を積極的に受け入れ、介護の仕事の魅力に触れて貰うきっかけを作り、福祉を担う後継者の人材育成に繋がりました。
- ・介護支援専門員を中心に各部署が連携し、ケアプランに沿った個別ケアを実施し、モニタリングによって随時プランを変更し利用者様の状態に沿ったケアの対応に努めました。

## 2) 短期入所生活介護

- ・利用者様、ご家族、介護者に対して、利用に関する契約内容を記載した契約書などの内容説明を十分に行い、これを理解の上安心してご利用頂くことが出来ました。
- ・利用者様のニーズに添えるよう、ご家族や担当介護支援専門員との連携を深め、短期入所計画に基づいた介護サービスを提供いたしました。
- ・利用者様の心身の状態を確実に把握し、利用中の事故等をなくしていき、状態変化なくお帰り頂けるように努めました。
- ・利用者様の状態変化があった場合は、速やかにご家族、介護者に連絡し、心身機能低下の早期発見に繋がりました。
- ・新型コロナウイルス感染自粛や職員不足の影響により目標稼働率を達成することが出来ませんでした。

## 3) 通所介護

- ・施設の運営理念を基本に、利用者様一人一人を大切にし、心から喜ばれるサービス提供ができるよう努める事ができました。
- ・朝と帰りの送迎では車の運転に注意し、安心してご乗車頂けるよう、安全運転に努める事ができました。
- ・利用者様への自立支援の介助ができ、いつまでも在宅生活を継続できるよう努める事ができました。
- ・新型コロナウイルス感染症による影響で、予定していた行事活動を中止する機会が多く、利用者様にはご迷惑をお掛け致しました。さらに目標稼働率の達成には至りませんでした。しかしながら、感染症対策を強化しながら、安心・安全を最優先しながらサービス提供を実施する事ができました。

## 4) 訪問介護

- ・人材確保等の諸般の事情により、令和4年4月よりサービスを休止させていただくこととなりました。利用者様、ご家族様をはじめケアマネジャー様等関係者の皆様には、大変ご迷惑をおかけしますことを深くお詫び申し上げます。
- ・高齢者の皆様が住み慣れた地域において、安心できる自分らしい在宅生活を維持、継続できるべく、介護、福祉、医療の専門職や地域包括、福祉事務所などの関係機関との連携を密にとりながらご利用者様の自立支援を実現するサービス提供に努めました。



- ・ご利用者様への質の高いサービスを継続的に実現させるために、事業所内での定期研修に職員全員が参加できるよう環境を整え、積極的に外部へのヘルパー研修への参加を促し、訪問介護員全体のスキルアップを図りました。
- ・苦情、要望の受付をサービス向上、改善の絶好な機会と位置付け、苦情、要望に関わる相談の受理後、組織全体で連携を密にしつつ、迅速にかつ丁寧な対応に努めました。

#### 5) 居宅介護支援事業

- ・利用者様・ご家族様はもとより、事業所・行政・地域から信頼される事業をめざし、中立・公平な立場で利用していただけるよう努めました。
- ・地域包括ケアシステムの充実・強化により、住み慣れた環境で暮らし続ける事が出来る社会の実現を目指して業務にあたりました。介護保険の基本的理念、自立支援（自立した日常生活）を観点に利用者様が安心して在宅生活が営めるよう医療・介護・他職種が協働、役割分担を明確化し、連携を強化できるよう努めました。
- ・要介護者と認定された利用者様には、アセスメントからその方のニーズに応えられる居宅サービス計画書を作成いたしました。
- ・居宅サービス計画が適切であるか、サービス担当者会議を通して利用者様・ご家族様及び介護者からのご意見を戴き、サービス事業者からの情報収集に努めました。
- ・利用者様・ご家族様の苦情はサービス改善・発展させていくために、情報収集し、利用者様・ご家族の立場にたち、迅速に対応しました。
- ・災害時の避難先などを確認して、居宅サービス計画書に記載できるよう努めました。
- ・介護支援専門員として、資質やケアマネジメントの質の向上、職種の専門性を高めるため、区や都の研修には積極的に参加し、研鑽に務めました。

#### 6) 地域包括支援センター

- ・公的な総合相談窓口として、地域のなかで課題を抱えた高齢者ご本人やご家族を早期に発見し、地域の方々、行政、専門機関と協力し、高齢者が安心して地域で暮らし続けることができるように、健康、介護、医療、福祉を中心とした相談支援を実施しました。
- ・高齢者虐待、成年後見、また消費者被害への対応など、地域のなかで困難な状況にある高齢者が、尊厳のある生活を維持し、安心して生活を行うことができるよう、専門的・継続的な視点から、高齢者の権利擁護のために必要な支援を行いました。
- ・高齢者の心身の状態や生活環境等の変化に応じて、適切な支援やサービスを組み合わせ提供できるように、地域包括支援ネットワークを活用しながら、関係機関と介護支援専門員との連携体制の構築を支援しました。

#### 4 住吉杉の子園

##### <施設全体>

短期入所サービスを1年間営業する事ができた事で、介護保険収入については、前年対比3.5%アップする事ができました。支出面に置いても削減する事が出来た事から、前年度より収益を上げる事ができました。

##### ① 人材の安定的な確保、維持

新卒者1名に対して、指導チェック表の活用と経験年数4年目の先輩介護士に担当させた結果しっかり業務を行える様になりました。

特養介護士の増員や看護師、通所の機能訓練指導員、非常勤介護士採用について1年を通じて苦慮しましたが、年度末に採用する事ができました。引き続き採用活動を行ってまいります。

昨年度より始めました、動画研修を活用しての内部研修を継続いたしました。

##### ② サービス目標値の設定とサービス向上への取り組み

長期入所の退所者10名、その内4名の方について看取り加算算定を行いました。喀痰吸引登録者3名、喀痰吸引研修に2名参加させ、現在施設内にて実地研修を継続中です。

見守りセンサーの使用方法を検証して、身体拘束廃止に向けた取り組みを行いました。

##### ③ コスト削減に取り組みます。

給食委託について、新規に3社の見積依頼を行い現状の委託料についての見直しを行いました。結果現在の委託業者が安価であり提供内容に問題もなかった事から継続といたしました。

行事費の予算を明確化した事で、担当職員が意識して行事行う事が出来ました。記録ソフトと連動する形で、請求ソフト導入を行い業務省力や記録ソフトの使用精度を上げる事ができました。

##### ④ 災害（感染を含む）対策の徹底

予告なし訓練は継続する事ができました。

感染に関するBCPの作成の研修に参加するまでに止まりBCP作成には至りませんでした。その中職員でコロナ感染を複数人発生してしまいました。

##### ⑤ 経年劣化に伴う、施設内修繕

エアコン修繕は、令和4年度に先送りいたしました。

消防設備並びに玄関自動扉の修繕は完了いたしました。

##### <ボランティア状況>

新型コロナウイルス感染防止対策にて、ボランティアの受け入れを中止いたしました。

<寄付者一覧>

令和3年度は下記の個人・団体の方からご寄付をいただきました。(順不同)

良知 清 大石春雄

静岡県退職公務員連盟榛原支部

1) 介護老人福祉施設

目標稼働率 95%に対して、稼働率93.1%

特養待機者の減少や長期入院者もあり、年度前半は目標利用率に届かない月がありました。さらに、職員の採用に苦慮した事から入居者様2名の方に、ユニット移動をお願いして、特養定員を48名として運営をいたしました。

2月に入り新型コロナウイルスに職員が複数人感染する事がありましたが、入居者様まで感染拡大をさせる事なく済んだ事は良かった事ですし、保健所からも評価を頂きました。

2) 短期入所生活介護

目標稼働率 25%に対して、稼働率19.9%

1年を通じて、事業を行う事ができましたので、大幅な収入増となる事ができました。またサービスの利用者様の中から長期入所申込を頂く事が出来ました事も目標としていた事が達成出来ました。

特養と一緒にフロアでまた配置職員も行き来のある事から、感染対策については十分配慮してサービス提供をいたしました。

3) 通所介護

目標稼働率 73%にたいして、稼働率44.4%

1年を通じて、機能訓練指導員の採用が出来なかった為機能訓練加算の算定する事ができませんでした。

活動的な通所サービスを目指して、歩行コースを設置、フロア内でも活動できる工夫をして取り組みました。

総合事業での利用者様については、入浴サービスを廃止、さらに連絡ノートに至っては全て廃止にし、サービス提供体制の見直しを行いました。

## 5 杉の子介護初任者研修事業

新型コロナウイルス感染により施設内への立ち入り人数を最小限にしていた事から昨年度に引き続き事業を中止いたしました。